

1 自己評価及び外部評価結果 (※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3071100279		
法人名	社会福祉法人紀三福祉会		
事業所名	グループホームひだまり 2階		
所在地	和歌山県海南市下津町方498-25		
自己評価作成日	平成24年7月8日	評価結果市町村受理日	平成24年9月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気づくりと利用者方が日々笑顔で穏やかに生活できるように支援しています。気分転換の外出は買い物 ドライブ 散歩 外食 各娯楽施設見学などで その日の状態に合わせて支援し、ひだまりでは懐石料理 選択料理 手作りおやつなどで喜んでいただいています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3071100279&SCD=320&PCD=30
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成14年4月に開所して今年で11年目のホームであり、長期間にわたる入居者もみられる。3階建ての建物の1階にはデイサービス2階と3階がグループホームとなっている。隣には同法人の住宅型有料老人ホームが有り、入居者同士が交流できるよう配慮している。地域住民を対象とした介護教室の実施しており、中学校の体験学習や福祉学校の実習生も受け入れるなど、外部に開かれた取り組みがみられる。職員は日々の生活の中での入居者とのコミュニケーションを大切に入居者の思いの把握に努め、入居者の笑顔がみられるケアの実践に努めている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人和歌山県認知症支援協会		
所在地	和歌山市四番丁52 ハラダビル2F		
訪問調査日	平成24年8月6日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼすべての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のもので)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日のミーティングで理念の笑顔が生活の中で出せているか話し合い実践につなげています。	理念の中の「笑顔」の言葉をキーワードに、スタッフが笑顔になることで、入居者の笑顔を引き出せるような関わりを念頭に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物時の知り合いとのたち話や散歩時の会話を日常的に行っています。	中学校の体験学習をきっかけに中学生との交流もみられ、近所の子供達が遊びに来たこともある。近隣の人が犬の散歩の途中に立ち寄ってくれることを楽しみにしている入居者もいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	半年に一度デイサービスとともに介護教室で認知症講座を開催しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者を含めた会議を時々開き毎回違う家族様を呼び意見を聞くようにしています。	入居者、家族、地域住民の出席は不定期で、外部からの出席者は地域包括支援センターの職員だけという回もある。	運営推進会議のテーマを考えたり、家族や地域の人が出席しやすい工夫で、立場の違う多くの人の意見を集めて、事業所運営に活用できることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に毎回出席していただきアドバイスを受け介護教室の協力もいただいています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全員身体拘束しないケアに取り組んでいますが玄関の鍵は利用者の外出希望時のみ開錠しています。危険時のみ家族様の了承を得てペット柵を使用しています。	身体拘束をしないケアを前提としているが、外へ出ようとする入居者やベッドから転倒してしまうおそれのある入居者もいるため、施設のハード面の都合又は病気の程度により、必要と思われる場合は、やむを得ず行う場合もある。	いま一度、職員の都合を優先しているのではないかを皆で話し合い、身体拘束をしない為に出来る事を考えて実践する事を期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員虐待防止について理解し防止に努めています。		

【事業所名】グループホームひだまり ユニット名：2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	1名が後見制度を利用していますので職員は学ぶ機会があり話し合い活用しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明をし訪問時にも不安や疑問点を尋ね、納得をいただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に毎回別の家族様が出席していただき外部者に意見を表せるようにしています。	家族会は、敬老会・食事会もかねて年2回開催し、アンケートも用意して、意見を聞いている。電話でのやり取りでは、細かい事も伝え、家族の声に応じる配慮をしている。	訪問が困難な家族とも意志の疎通が図れるよう、各家族ごとに連絡の仕方を聞いて個々に合った対応ができることに期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	半年に一度三者面談を行い意見や提案を反映させています。	会議以外に普段のやり取りの中でも、意見をだしやすい関係が出来ている。また経営者、管理者、職員の三者が話せる機会、職員が直接上層部に言える機会も用意されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課にて実績の評価や今期の目標や自由記入にて条件の整備につとめている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修や会議後の勉強会にてトレーニングをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議の参加や同法人内の相互訪問等の活動を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の出来る事 出来ない事 背景シート 好きなもの 嫌いなものシートを記入していただき本人の安心を確保している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期には連絡を密にし不安や要望を聞いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネージャーの意見や退院計画書 看護サマリーなどで支援を見極めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理を一緒につくり後片づけをし、花や野菜をつくり育て生活しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	自由に電話をしたり外出 外出を楽しんでいます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	交流は主に面会でとられ受動的である。	自宅で家族と過ごしたり、美容院等の馴染みの場所へも行くことができるよう家族にも協力を働きかけて支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格に合わせリビングの椅子の場所の提供に配慮し利用者方向士が関わりが持てる用に支援をしています。		

【事業所名】グループホームひだまり ユニット名：2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同法人入所後や、他施設入所後も面会や状況は把握している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いを生活シート上にひらい記録し職員全員で共有しケアプランに反映させている。	日々の生活の中で本人の言葉を聞き、入居者ごとの担当職員が生活シートに書いて思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	年代別背景シートやセンター方式を利用し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェックや生活シートの活用で日々把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の思いを生活シート上にひらい記録し職員全員で共有しモニタリングをしてケアプランを作成し家族様にも意見を聞き介護計画を作成している。	生活シートで本人の思いをくみ取り計画を作成し、モニタリングを実施して話し合い、次の計画に繋げるようにしているが、介護計画の内容に不明瞭な部分もみられる。	介護計画の記入内容を、どの職員にも分かる内容となるよう見直し、家族にも説明しやすくなることを期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践 結果気づきや工夫を個別に記録し、介護計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	PT利用や個々のニーズに柔軟に対応している。		

【事業所名】グループホームひだまり ユニット名：2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署の防災訓練の参加や中学生の体験学習の受け入れなどで、安全で楽しく生活できるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	心身の変化や緊急異常時に気軽に相談できるかかりつけ医を確保している。	緊急時には生活支援ノートを医療機関に持って行き、日々の記録から情報提供をしている。定期的受診は家族が送迎受診できるよう働きかけている。ホームの協力医以外の個別のかかりつけ医の往診も得られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人訪問看護師に24時間対応してもらい適切な受信の対応を支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は随時病院関係者に連絡を取り状態を把握している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医 家族様 同法人生活指導員とともにスタッフと今後の変化に備え家族様に説明をしながら支援に取り組んでいる。	法人の方針で看とりは行っていない。医療面の対応など、グループホームでの介護が困難となった場合は家族と良く相談し、法人内外の施設への移転を含めた支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	常に緊急対応マニュアルを話し合い消防の救急訓練に参加、初期対応の実践を訓練している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間津波の場合は三階に避難地域住民も受け入れ日中は港ふれあい公園に避難をする。	定期的に入居者も交えて夜間を想定した防災訓練等を行っている。	災害時には地域の人の助けも必要となる。地域住民の協力も得て避難訓練を実施でき、近くの老人ホームとも協力関係を築くことが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重した対応をしている。	個人を尊重し、入居者に合った声をかけている。入浴、排せつ時の羞恥心にも配慮し、必要とする入居者には同性介助を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の買い物付き添いは自己にて購入できるよう支援し外食時のメニュー決定 選択メニューの決定などの工夫をして自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを大切にして希望に添えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪ボランティアの協力やスタッフのネイルアート お化粧品などの支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者方と一緒に食事を作り、一緒に食べ、片付けも一緒にしている。	入居者が出来る事に合わせて買い物、食事作り、後片付け等を手伝えるよう支援している。職員も一緒に会話しながら同じ食事を味わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量の管理や栄養バランスに注意し飲みたいたときに水分が取れるように部屋にお茶を置き 飲み物も嗜好に合っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア指導 声掛け 週一度のポリデント消毒をしている。		

【事業所名】グループホームひだまり ユニット名：2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンに合わせてトイレ見守り誘導、声掛けをしている。	リハビリパンツをしていても、トイレ誘導をして、排泄の自立に繋げている。トイレは鍵の掛らない洋式と鍵の掛る車いす対応のトイレがあり、入居者は好きな方を使い分けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分強化や排便チェック表の個々の管理で予防している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望やタイミングで入浴をしている。	朝9時から夕方5時までの入居者の好きな時間帯に入浴できる。リフト浴は無いので、二人がかりで介助する入居者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の状況に応じている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルのお薬内容に目的、作用を記入し薬はスタッフが管理、手渡しをしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	残存能力を把握し生活の中に役割を取り入れ各利用者の気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	外出は本人の希望を把握し家族の協力とともに外出している。	散歩、外食、ドライブ、買い物等、車イスでの外出にも困らないよう準備して支援している。地域の保育所にも働きかけ運動会にも出かけている。	

【事業所名】グループホームひだまり ユニット名：2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の持ちたいひとは管理できるお金を持っている。服購入などは自己にて払うよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話をしたり外出を楽しまれています。電話をしたり、家族様からの取次をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着ける場所づくりを心がけ工夫している。	壁には入居者と一緒に行った作品が配置よく飾られている。テレビの前のソファや、少し離れた場所に配置された椅子など、自由にくつろげる空間となっている。間仕切りされた和室は家族と一緒に懐石弁当で誕生日を祝うことにも活用されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間では思い思い過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の思うような居室で思うように過ごせるようにしている。	居室入り口に入居者の名前入りプレートを掛けている。私物の持ちこみは少ないが、各自が作ったフラワーアレンジメントの作品を飾るなどその人に合わせて工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存能力を把握し生活の中に役割を取り入れ個別援助計画を作成しています。		